

## 《2007年4月例会報告》

【日 時】2007年4月27日(金) 19:00~21:20 (→その後「ルン」~2:00)

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室

【テーマ】地方から見たレディースフットサルの現状と今後

ートリムカップ・レディースフットサル大会をめぐって

【報告者】中塚義実

【参加者(会員)】阿部博一(R&A) 牛木素吉郎(ビバ!サッカー研究会) 加納樹里(中央大学)  
菊池正史(RATOKYO) 岸卓巨(DUOリーグ事務局) 三枝敏洋(東京都フットサル委員会・  
女子担当) 高田敏志(町田高ヶ坂SC) 茅野英一(かながわクラブ) 中塚義実(筑波大学附  
属高校/東京都サッカー協会フットサル委員会・第2種担当) 西村祥央(高知県FA) 野口良  
治(東京都サッカー協会) 藤田直樹(ビバ!サッカー研究会) 本杉亀一(会社員)

【参加者(未会員)】★青木伸彦(東京都サッカー協会フットサル委員会・運営部) ★當間信彦(会  
社員・コノティ(株)) 小林達彦(フリーランス(Radio)) 長倉亮一(芝生応援団グラス・ルータ  
ー) ★峯山典明(府中アスレティックFC)

注) ★は初回参加のため参加費無料

【ルンからの参加者】齊藤健司 室田真人

【報告書作成者】室田真人

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

\*\*\*\*\*

# 地方から見た レディースフットサルの現状と今後 ートリムカップ・レディースフットサル大会をめぐってー

中塚 義実 (筑波大学附属高校/東京都サッカー協会フットサル委員)

\*\*\*\*\*

## ■はじめに

### 1) フットサルの全国大会

サロンの月例会ではこれまでも何度かフットサルのことを取り上げましたが、今回は、「トリムカップ・レディースフットサル大会」、レディースの話です。けど残念ながら、参加者は男ばかり(笑)。これはサロンの永遠の課題ですね。

サッカー協会の機関誌であるJFAnewsの2月号の巻頭言は、大仁副会長による「2007年はフットサルイヤー」と題する文章でした。2007年度の主なフットサル大会は、スライドにあるとおりです。アジアのフットサル選手権大会が5月中旬に大阪と兵庫であります。これは日本代表です。そして秋からいよいよ全国リーグ、「Fリーグ」が始まります。Jリーグの立ち上げのころのように、Fリーグ

へ向けてチームも多少再編され、いくつかのクラブはプロ選手を雇ったりフットサル専用体育館を造ったり。フットサルが全国展開していこうとしているところです。

年代ごとのフットサル大会もあります。プーマカップは第1種の全国大会で、今年が第13回になります。つまり13年前に、わが国のフットサルは全国大会ができるまで組織化されたということです。「全日本大学フットサル」は2006年度からはじまりました。大学生のフットサル人口は非常に多く、その潜在的ニーズから開催に至りました。U-18の全国大会はありません。U-15の全国大会も本年度で13回目です。つまり大人の大会と同じ時に始まって、13回目を迎えているということです。少年の大会は「バーモントカップ」で17回目。「ティファールカップ」が女子の全国大会で、第4回となります。ティファールというのは、食器類、フライパンとかブランド、雑貨メーカーみたいな感じです。これが女子の単独チームの全国大会です。それからフットサルは、地域ごとにリーグ戦をやっているの、地域リーグのチャンピオンが集まって行われる「地域チャンピオンズリーグ」があります。さらに「全国選抜フットサル大会」が、男子の選抜大会として行われています。

スライドの▲印と●印は、日本サッカー協会主催と、日本フットサル連盟主催で分けています。

## 2) 東京都サッカー協会フットサル委員会について

さて、本題に入る前に、何で私がフットサルなのかというところに触れておく必要があると思います。1994年度だったと思いますが、各都道府県にフットサル担当者を置くようにJFAから指示があり、各都道府県でフットサル委員会を組織することになりました。青木さんはその頃からのメンバーで、野口さんもこの年に東京協会に入られました。

初代委員長は、当時成城大学の教員だった小野剛さん。日本協会の技術の仕事もしていましたが、彼が東京都のフットサル委員長でした。小野さんが成城大学を離れてしばらくは、清水眞事務局長がフットサル委員長を兼任した時期がありましたが、審判部からフットサル委員会に入っておられた梶野政志さんが今日までフットサル委員長を務められています。青木さんは運営部を、三枝さんは女子を、徳田さんがU-15を担当し、中塚がU-18を担当しています。いずれもサロン会員です。

## 3) 東京都におけるU-18フットサル大会について

各都道府県でフットサル委員会が組織されたのは、全国大会の予選を各都道府県でやるためであり、その意味ではトップダウンでの組織化でした。先ほど見てもらったように、少年(第4種)、中学生(第3種)、そして大人(第1種)の全国大会はあるのですが、第2種が抜け落ちています。これは、考え方として、第2種は第1種と一緒にやればいいということのようです。

あるとき、東京都フットサル委員会で事業計画の議論をしていた際、高校生年代でフットサル人口が増えてきていることが話題になりました。例えば、11人揃わないサッカー部が、実質的にはフットサルをやっていることや、民間のフットサルコートで楽しんでいる高校生が増えてきたということです。フットサル同好会も増えてきたので、都内完結でいいからU-18の大会をやろうということになり、2001年度から東京都独自でU-18大会を始めました。菊池さんはこの大会の初期の頃から審判としてサポートしていただいています。そしてこの事業が、2005年度から日本サッカー協会のトライア

## 2007年度の主なフットサル大会

■AFCフットサル選手権大会 日本 2007

...5月13日～19日 大阪府・兵庫県

●日本フットサルリーグ2007(フリーグ)...9月23日～2月17日 各本拠地

●PUMA CUP2008

第13回全日本フットサル選手権大会...2月末～3月9日 兵庫・高知・東京

●全日本大学フットサル大会2007...8月10日～12日 大阪府

●第13回全日本ユース(U-15)フットサル大会...1月12日～14日 福岡県北九州市

●バーモントカップ

第17回全日本少年フットサル大会...1月4日～6日 東京都

●ティファール・カップ2007

第4回全日本女子フットサル選手権大会...11月2日～4日 東京都

▲第8回FUTSAL地域チャンピオンズリーグ...3月14日～16日 愛知県豊田市

▲第23回全国選抜フットサル大会...7月13日～15日 鹿児島県

●日本サッカー協会(JFA)主催 ▲日本フットサル連盟(JFF)主催  
(JFAnews2007年4月号より)

ルFA事業となり、全国にU-18大会の内容や方法を情報発信することになりました。

具体的には、8月初旬の「東京都フットサルチャレンジ U-18」と、冬に行われる「東京都ユース(U-18)フットサル大会」です。前者は、初日午前クリニックを開き、最終日まで試合ができるという、どちらかというと普及目的の大会で、後者は U-18 のチャンピオンを決する大会としています。

お金のない中で大会運営しているので、大会前にプログラムを作ることができません。その代わりに、大会後に報告書をつくって参加チームや関係者に配布しています。

大会全体を振り返るとともに、どんなチームが参加していたのかを知ってもらう意味

でつくっており、大会以外の交流に役立ててもらっています。トライアル FA 事業として作成する冊子は、基本的には大会ごとの報告書をまとめたもので、全国各地に配布しています。

ここから写真が幾つか出てきます（報告では略）。これは駒沢屋内球技場。「東洋の魔女」の体育館ですが、ここに2面とって大会を行っています。ちなみに、黄色のユニフォームを着たチームは、わが筑波大学附属高校です。彼らは普段は11人制のサッカーに取り組み、高体連の大会やDUOリーグに参加するのですが、1月は11人制のサッカーをやらない、オフシーズンと位置付けています。そこで彼らはフットサルに取り組むのです。白いユニフォームを着た相手チームは、成立学園フットサル同好会です。ご存じのように成立高校はサッカーの強いところですが、サッカー部を辞めた子どもたちが、最初は愛好会として、そして去年あたりから同好会として、顧問もついてやっています。毎回成立A・Bという形で出てきます。まあ、このように、いろんなチームが、いろんな背景をもったクラブから出てきているということです。

運営は、簡略化しています。フットサルの場合、プレーイングタイムなのでタイムキーパーを置く必要があるのですが、これをやっていると大変なので、ランニングタイムでやっています。ですので、ピッチサイドの運営スタッフは、3人もしくは2人です。

フローア：2人はきついですか。

青木：ランニングタイムでやっていますので 慣れてくれば1人でもやるケースもあります。普通はまあ2人です。3人座っちゃっていますけど。

試合30分前のマッチコーディネーションミーティングも、レフェリー立ち会いのもとユニフォームの確認と、簡単な打ち合わせをする、簡略化されたスタイルです。

ファーストラウンドは駒沢の体育館ですが、セカンドラウンド、ベスト8以上のところは学校の体育館を使っています。筑波大学附属高校の体育館です。こんな感じでやっています。表彰式の様子です。優勝したフォックスFCは、フットサルクラブです。こういうクラブがちょっとずつ増えています。ただ、ユニフォームを着ているのが6人ということから分かるように、このチームはぎりぎりの人数でやっています。

## 東京都におけるU-18フットサル大会

- 1994年度より、東京都サッカー協会にフットサル委員会発足
  - 2001年度より、都内完結型のU-18大会開始
  - 2005年度より、トライアルFA事業として情報発信
- 1) 東京都フットサルチャレンジU-18  
8月初旬の土日、12~16チーム、  
初日午前クリニック、負けても最後まで試合あり
  - 2) 東京都ユース(U-18)フットサル大会  
1~2月の3日間、16~28チーム、  
U-18チャンピオンを決する大会  
U-15と同時開催

## ■ トリムカップのはじまりのはじまり

### 1) 高知県の変化

ではここから今日のメインである、トリムカップの話題です。日本トリムというのは、水の会社です。おいしいだけでなく身体にもいい水です。

これにははじまりのはじまりの物語があります。これは高知県の変化が関係していると思います。

今日のタイトルにある「地方からみた」という「地方」は、高知県なのですが、地方分権でそれぞれの自治体がしっかりやっていきなさいという流れの中で、高知県知事に橋本大二郎さんが就任されたのが1991年です。高知県の人は、天地がひっくり返るくらいの経験をしました。それまで、お役所の人たちも、割とおおらかな雰囲気でも働いていたのですが…その辺りはどうですか。

西村:とにかく橋本知事に代わるまでは、先ほどおっしゃったように、県政自体、旧態依然というような感じだったのです

けど、知事が選挙でとにかく県民の支持を受けて、票数もかなりすごかったのです。それから県庁の仕事というのですか、劇的に変わってきました。

## トリムカップのはじまりのはじまり

### ■高知県の変化

- ・高知県知事に橋本大二郎氏(1991年12月)
- ・高知県大阪事務所長・安倍望氏、次長・田中拓美氏(1996)  
「意識」変われば「常識」が変わる、「組織」は動きます  
(安倍氏は、高知県商工労働部長からの異動。早期退職後はオリエンタルホテル高知へ。スポーツ観光事業の開発を手がける。2007年没)

### ■県外の高知県民の思い → 大阪府とのパイプ

- 「大阪ジョン万の会」(1991~2005)、「高知県人会」、「大阪工業会」等にて、人と情報のネットワークづくり

→ 高知県と大阪府をつなぐ企画

- 例)日本トリムの南国市進出/「とさ千里」「土佐産商」(2000)等

- ・株式会社日本トリム社長 森澤紳勝氏

- ・(株)サンメイ会長 中塚頼彦氏

### ■高知県とサッカー界のパイプ

- ・高知県サッカー協会会長に成田十次郎氏

## 2) 県外の高知県民の思いー大阪府とのパイプ

その知事が、2期目になったときに、大阪にある人物を派遣します。地方の県は大都市に出張所を持っているのですが、高知県大阪事務所長に、現役の高知県商工労働部長だった安部望さんという方が赴任されました。次長の田中拓美さんを含め、この人事は、大阪にいた高知県出身者からするとビックリ人事で、いやすごい人が来てくれたということだったようです。

赴任してまず、大阪事務所の人に「意識」が変われば「常識」が変わる、「組織」は動きます」と語られた安部さんを軸に、高知県と大阪をつなぐさまざまなアクションがこの辺りから始まったと聞いています。お役所を退官されると関連の財団に天下りするのがあるがちなパターンですが、安部さんはそういう道を歩きたくないということで早期に退職され、オリエンタルホテル高知へ移られ、そこでスポーツ観光事業の開発を手がけられた方です。トリムカップの創設にも大いに貢献されましたが、今年の3月にお亡くなりになりました。

おそらく土佐藩の頃から、高知県は、「脱藩者」と言いますか、高知を出られた人たちが活躍するのです。坂本龍馬がそうですね。高知県を離れていろんなところで動き回って活躍する、しかし郷里を思い続けているのが高知県民なのでしょう。いろんなネットワークができています。

ジョン万次郎は土佐清水の漁師でしたが、嵐に巻き込まれ、南の島に漂流し、そのままアメリカ人の捕鯨船に乗ってアメリカに行き、鎖国の時代に近代文明に触れ、そして日本に戻ってきて幕末の日本で活躍するという人物です。そのジョン万の精神(彼らは「ジョン万シップ」と言っていました)を柱に集まろうではないかと、大阪の人たちで「大阪ジョン万の会」をつくり、そこで経済界の人を中心にいろんな繋がりができていきました。それから、「高知県人会」はどこにでもあります。これもネットワークの核になっています。私は大阪府民ですが、なぜか筑波大の高知県人会に参加しており、酒の飲み方を高知県人会で教わりました。妙な繋がりがありません。

そういういろんなところでネットワークができて、知らず知らずのうちに高知県と大阪を繋ぐさまざまな企画が生まれてきました。例えば、日本トリムの森澤社長は土佐清水市出身です。土佐清水に工場があったけど、高知県の他地域にも進出したいということで安部さんに相談し、南国市に工場を

出すようになります。また、「とさ千里」や「土佐産商」は、サンメイ会長の中塚さんが大きく関わっています。高知県には新鮮な野菜や果物や魚がたくさんありますが、市場がない。一方、大阪には、市場はあるけど新鮮なものはない。橋もできたし行き来しやすくなった今、大阪のど真ん中に高知県の出店をつくれればいいじゃないかということで、千里ニュータウンのど真ん中に「とさ千里」という出店をつくり、そこで産直の事業をやっています。「土佐産商」も同じようなことで、高知の木材を大阪の、ニュータウンのリフォームに使ってもらおうというようなことが 2000 年頃から第 3 セクターで展開しています。ここでのキーパーソンとして、日本トリムの森澤紳勝社長。そして株式会社サンメイ会長の中塚頼彦氏。

この人は高知県出身ですが、いろんところで動き、人と人を繋ぎまわります。土佐高校出身の中塚さんがサッカーを教わったきっかけは、成田十次郎先生です。高知県の山奥から、高知市内の高校に通うため市内に下宿した成田先生のご近所さんが中塚さんです。そこでボールを蹴るわけです。中塚さんが進んだ土佐中・高にはその当時サッカー部がありませんでしたが、高校生だった成田十次郎氏がサッカーのコーチとしてやってこられます。こういう深いつながりのある中塚氏と成田氏です。

### 3) 高知県とサッカー界とのパイプー成田十次郎氏の存在

成田十次郎氏は、一言でいうとクラマーを見つけた人と言っていいでしょう。とにかく当時からのすごく大きな影響力を持っておられる方ですが、筑波大学を退官された際、高知県に来てほしいと中塚さんが口説きます。成田氏もやはり土佐の方なのですね。自分の郷里のことをずっと思っておられ、そしてついに、高知女子大の学長として高知県に来られることになります。

2002 年は高知国体があったのですが、成田氏は高知県の県体協の副会長をされ、そのうちサッカー協会でも会長就任という動きとなり、いよいよ成田先生がサッカーの方にも力を入れた、こういうストーリーとなっております。

成田先生が高知女子大に赴任されたということが一つのポイントです。高知は、男の人の性質を「いごっそう」、女性を「はちきん」と呼んでいます。この辺を西村さん、説明してください。

西村：女性ですね、仕事をばりばりやり遊びもし、という革新的な女性のことを土佐では「はちきん」と言い、それに対して男性が「いごっそう」というような言い方で呼ぶことがあります。反骨精神があつて頑固な一徹なというような意味あいです。話す言葉なんかも結構、高知弁で言うと「がいな（キツイ）」っていう感じで、男性も女性もやりあいます。お酒も強いです。そんな県民なんですけど、とりあえず議論好きっていうのが特徴でしょうかね。

成田先生が赴任されたのが女子大、「はちきん」の大学ですね。それで、このネットワークの中でサッカーをどうするかと考えると、女性とスポーツ、女性とサッカーというのが一つの切り口として出てきたのです。

中塚頼彦さんがいつも言っていたのは、高知県は成田十次郎さんを会長に置きながら、何もようせん。成田先生が会長にいらっしゃる間に、何か始めんとアカン、というようなことで、かなり大阪の人たちにも高知県の方たちにも声を掛け、「何とかせい！」とはっぱを掛けていたようです。

## ■ トリムカップのはじまりーある日の食卓から始まった

2004 年の夏頃だったでしょうか。私がお阪に帰省した際の夕食時の会話の中で、「ママさんサッカーを高知県でやるぞ！」ということをお、うちの親父（中塚頼彦氏）が言い出しました。日本トリムという会社の、土佐清水出身の社長が協賛金を出してくれる。実現性は高いということでした。

日本トリムが出してくれるという協賛金は、都内でやっている高校生年代の大会予算の何倍ものお

金です。これは相当いいものができるぞと思いました。スポンサーもついている。高知県でママさんサッカー、やたら張り切っているわけです。

けど、僕はちょっと冷めた目で話を聞いていました。まず、「ママさん」というのは、言葉として古過ぎる。家庭婦人限定のイメージから、もっといろんな立場の女性が参加できるようなイメージの方がいい。サッカー協会でも「レディース」や「ガールズ」と言い方を変えてきている。

それから「サッカー」には無理がある。確かに11人でできればいいけど、女性を11人集めるのはなかなか大変。また、大会をやるにはグラウンドをある一定期間押さえることが必要で、それも大変だし、雨が降るとえらいことになる。特に女性の場合、「日焼け」だとか「汚れる」とかいうのはマイナス要因になりかねない。それなら体育館でフットサルをする方が絶対にいい。これは、都内で女子のフットサル大会、三枝さんが実行委員長でやっておられますが、筑波大附属高校サッカー部の女子連中も毎回出ているので、女子フットサルは絶対にいけるというのがあったので話をしました。

「高知県」は高知県でいいのだけど、ローカルな県に本当に来てくれるのかということもありました。どうせ女性を集めるのなら、高知県は太平洋を抱えていますので、土佐の「はちきん」が、アジア、オセアニアといった地域の肝っ玉母さんのような人々と交流するのがおもしろいのではないかと。父親と話をしているとどんどん話がでかくなっていくのですが、この頃から、全国展開よりもアジア・オセアニアへという話をしていました。

そのときは最後まで「ママさんサッカー」に拘っていたようですが、そのうち「レディースフットサル」ということになっていきました。はじまりはある日の食卓です。

## ■第1回トリムカップ

第1回トリムカップが昨年の3月24、25、26日に開かれました。24日はプレイベントですね、24日の夕方から。関西・中国・四国、開催地から16チームが集まって行われました。日程的には、初日の夕方に各地から集まって、監督主将会議のあと、シンポジウムが開かれました。フットサルの競技だけでなく、せっかく各地から女性が集まるのだから、いろんな情報が得られたり交流できるような企画をしよう。「する・見る・語る」場を設けようということで、初年度は「健康・スポーツ・水」というテーマでのシンポジウムでした。

翌日から競技会です。優勝は、MFP NICO COLORS、兵庫県のチームです。相手は大阪女子選抜です。そして3位決定戦は地元高知同士。高知 JFC ROSA という

### それはある日の食卓から始まった —トリムカップ・レディースフットサル大会のはじまり—

「ママさんサッカー大会を高知県でやるぞ！」

・ママさん？

→レディースへ

・サッカー？

→フットサルへ

・高知県？

→高知県から世界へ...

## 第1回トリムカップ

- 2006年3月24日(金)~26日(日)
- 参加16チーム(関西・中国・四国)
- 日程
  - 3月24日(金)
    - 17:30~18:00 監督主将会議
    - 18:00~19:30 開会式・シンポジウム「健康・スポーツ・水」
  - 3月25日(土)9:30~19:00
    - 1次L(3チーム総当たり)&R8
  - 3月26日(日)9:30~14:00
    - 準決勝・3決・決勝

決勝:MFP NICO COLORS(兵庫県) 4-0 大阪女子選抜  
3決:高知JFC.ROSA 2-2(PK3-2) 南国高知Branco Baleia

のは、中学生中心のチームでした。

西村：そうですね、中学生が割と多くて、通常はサッカーを主体にやっているようなチームで、この大会のために直前に練習をやったということです。

ということで、試合結果はこんな感じでした。写真は幾つかお見せいたします。これがシンポジウム会場の入口ですね。これがちょうど開会式、シンポジウムが始まる前の様子です。選手宣誓。こういうシンポジウムです。左から森澤社長、真ん中が大坪社長、そして大仁フットサル委員長です。今年、大仁氏は日本協会の副会長として来られました。そしてこれが会場の南国市の体育館、2002年の国体のバドミントン会場としても使われた、かなり立派な体育館です。

それで、これがスタッフルームで、西村さんがいます。

西村：右側が、高知県フットサル委員長の武市です。私の横でしゃべっていますのが、県の松木、そして副会長の吉村で、吉村は日本協会の方にもいろいろとお世話になっておりまして、東京へもしょっちゅう来ております。一応これが大会の運営本部なのですが、まあこぢんまりとした形で、とにかく1回目は手探りの状態でやっていたので、本部も毎日バタバタの状態で行っていました。全国規模の大会というのを県協会主催でやること自体が初めてですし、どこから手をつけてどんなふうにやっていったらいいのかというのが不安だらけで、当日を迎えたというような形です。

西村さんの横にいる吉村修さんが、東京協会の野口さんの大学の先輩です。東京でやっているフットサル大会の運営について吉村さんから野口さんに質問が行き、野口さんからアドバイスをいただいたと聞いています。行ってみてビックリしたのですが、運営スタッフの持つ資料が東京で見ているものと作りがほとんど同じで、野口さんがつくった資料が高知県で生きていました。

野口：自分たちに連絡があったのは1回だけで、資料を送ってくれて、それだけです。

西村：第1回目のトリムカップ開催前にティファールカップを視察させていただき、そのときに運営のノウハウというか、教えていただいて、資料的にはこの時にいただいたものを参考にさせていただきました。

東京でやっていることが地方に生きているということですね。

これが体育館の中の様子です。最初は2ピッチで運営しています。

これが決勝戦です。決勝戦くらいになると一面に張り替えてやっています。表彰式です。

私は第1回大会から視察で行っていますが、せっかく高知県に来ているのにずっと体育館で見ているだけというのももったいないということで、少しばかり観光に出かけました。

これは龍馬記念館の蠟人形です。薩長同盟の様子ですね。そして桂浜の方に足をのばし、龍馬の銅像に着き、裏側に回ると、こうなっています。ご存じだったでしょうか、この銅像を造った人は、「高知県青年」なんです。ある特定の人物ではありません。高知県の青年がつくったのです。

実は、入交好保さんという、もう亡くなられた方ですが、その方が早稲田大学の学生だった頃にしたのです。高知県民みんなが龍馬を愛している、けど龍馬の銅像がないのはいかん、何とかしてお金を集めてつくろわないかと行動を起こします。上京していた高知県出身の学生たちが手分けして、東京や大阪で成功している高知県出身者のところを回り、さらには夏休みに帰郷した際に、県内の学生とも協力して高知県中を歩き回って寄付を募り、そして銅像建立に至ったという話です。この話は入交さんが書かれた本（入交好保著『ふるさと昭和の証言』、高知新聞社、1987）や、ご存命中に一度お会いしたときにお聞きしていたのですが、今回、それを確かめることができました。

## ■第2回トリムカップ

今春開催された2回目のトリムカップの前に、今後、この大会をどうするかという議論がありました。成田会長は目白にお住まいがあって、1ヶ月のうち半分は高知、半分は目白という生活です。成田先生のお宅で、高知県から来られた吉村さんと私と3人で作戦会議を開きました。この大会をメジャー化するために、全国展開、もしくは海外を視野に入れていきたいということです。3回目くらいまでは現状と同じ規模でやり、その次あたりから変えていこうということです。

今年の3月30日から4月1日が第2回大会の期間です。実は、当初の計画から1週間ずれて、年度末のどたばたの時期になったのです。参加18チーム、関西・中国・四国に加えて九州からも2チーム参加しました。スケジュール的には前年度とほぼ同じですが、今年はシンポジウムではなく交流会が、立食形式で企画されました。南国市の和太鼓が披露されたり、参加チームの自己紹介があったりという形でした。懇親会の乾杯のご発声は橋本知事です。これだけみても高知県が本気で取り組んでいることがわかんと思います。

大会は、高知 JFC ROSA が優勝しました。大阪女子選抜が決勝の相手。もう一つの高知県のチーム、南国高知 Branco Baleia も3位になりました。単独チームでも選抜チームでもいいから各県協会にお願いするような形で参加チームを募ったところ、高知の2チームは単独で、大阪と兵庫は選抜でした。

スライドをみていきましょう。これは開会式をやったホテルで、幟は今年からですよ。

西村: 昨年の大会を終えて、もう少し改善  
というか、やっていこうということで、何か追加できることはないかと、幟をつくり、会場周辺と宿泊のホテルに設置をして、歓迎ムードを高めたということです。

これは評判よかったですよね。成田会長です。懇親会の冒頭に、スポンサーのトリムさんから商品の説明がありました。これがすごく面白かったです。普通、お茶って、お湯じゃないと出ないじゃないですか。ところがトリムの水を使うと、水なのにお茶になるのです。そういう簡単な実験をされ、会場からオーという歓声が上がりました。この後スライドでメカニズムの話もされていました。ちなみに、右側の機械が20万円ぐらいする整水器で、抽選会の商品にもなっていました。

成田高知県協会会長の挨拶。大仁 JFA 副会長からの挨拶。そして、橋本大二郎高知県知事が乾杯のご発声です。参加者のアンケートにも、知事さんが来ていてびっくりしたというのがありました。和太鼓の演奏もありました。今回すごくよかったのは、参加チームみなさんから一言ずつコメントを頂いたということです。和気あいあいとした雰囲気、交流の場が設けられました。

翌日からは、再び南国市の体育館での競技です。体育館に入るとこのような吹き抜け、そしてトリムの展示物。競技会は去年とほぼ同じようなスタイルで行われ、2日目のお昼頃に抽選会です。プレーヤーも含め、入場された方は整理券を持って中に入り、抽選会で商品が当たるといふものです。最初はトリムの水1ケース。持ち帰りが大変ですけど、最初から盛り上がっています。だんだん景品も

## 第2回トリムカップ

- 2007年3月30日(金)~4月1日(日)
  - 参加18チーム(関西・中国・四国・九州)
  - 日程
- 3月30日(金)
- 17:30~18:00 監督主将会議・開会式
  - 18:00~19:30 交流会(トリムのプレゼン&和太鼓&懇談)
- 3月31日(土) 9:30~19:00
- 1次L(3チーム総当たり)&R8
- 4月1日(日) 9:30~14:00
- 準決勝・エキジビジョン・3決・決勝
- 決勝: 高知JFC.ROSA 2-1 大阪女子選抜  
3決: 南国高知Branco Baleia 3-2 兵庫県女子選抜



よくなっていき、最後は20万円の整水器が贈られました。ただ、初日で負けてしまうと、2日目試合がないので、折角当たっているのに会場に当選者がいないというようなこともあり、その場合は再抽選となっていました。

南国高知 Branco Baleia のサポーターです。こういう人たちが、抽選会の時にもえらい熱心に声をあげて盛り上げてくれていました。

決勝戦です。決勝戦は1面に作り替えて行きます。表彰式ですね。これは優勝した高知 JFC ROSA です。結構若いチームです。これは準優勝の大阪府選抜です。試合が終わって、全部後片付けを終えるとこんな感じです。ここまでで質問等、ありましたらお願いします。

## ■質疑応答

### ◆告知について

フロアー：お客さんはどれぐらい入っているのでしょうか？

西村：純粹にトリムカップを、お客さんの立場で見るといって、そこまで至ってないですね。チーム関係者、応援がほとんどです。会場の客席キャパとしては1040席なのですが、半分入っているかどうか？

中塚：まあ、ほとんど身内ですよ。

西村：そうですね。選手も当然、客席にいましたので、ほとんど身内でしたね。

中塚：事前告知はどうでしたか。

西村：事前告知は、県内のタウン誌とかですね、それから地元紙に。ラジオを使ったりとか、あとはポスターですよ。観客動員という意味合いでいうと、たしかにスポンサーメリットとかは弱い感じですよ。

中塚：高知新聞は取り上げてくれました。けど不幸なことに、金曜日が選挙の告知日と重なって、目がそっちに行ってしまったのですよね。

西村：ちょうど、春の選抜で高知県から2校、室戸と高知高校が出て、ちょうど室戸が勝ち上がって、そっちに話題が飛んだかなと。

中塚：それでも、試合の初日にはテレビも来ていましたよね。

西村：地元局が、さんさんテレビ、フジ系ですけど。ラジオ局は来てくれなかったですね。

小林：フットサルはテレビ向きではないでしょうか。テレビの効果はあると思います。サッカーはラジオが適しています。

野口：今の話だと、後援団体が告知関係にからんでいると。そういう媒体をつけられたり、何とか告知方法を考えられたらいいのではないのでしょうか。高知県とか高知市とか南国市が後援に入っているのは何ですか。

西村：自治体については主に住民への広報誌やポスター掲示等でご協力いただいた形です。

牛木：メディアの方が早いのですよ。

西村：無料のパブリック的な形で、開催告知を地元放送局さんにやっていただいたのですが、正直観客から入場料取って見せるという大会ではないので…。そういう事業だと、違ってくると思いますが、無料の形ですし、そこら辺の宣伝までなかなかお金を掛けられていません、正直言って。

### ◆参加チームについて

フロアー：参加チームは、どのようにして決められたのですか。

西村：初回からそうなのですが、吉村副会長から、関西、中四国の各県のフットサル委員長に直接話をさせていただいて、単独でもいいし、選抜でもいいしということで、話をさせていただきました。

フロアー：1回目も2回目も一緒ですか。

西村：1回目に出ていただいたところは、そのまま文章をまたお渡ししてお願いしました。1回目は、14チームが本当に集まってくれるかということが不安としてありまして、大会の4ヶ月前、11月の時点で参加意識調査というか、参加要請というか、本当に出てくれますかという問いかけの文章を出しまして、それで出ていただけるというのが分かりました。そこから仕上げをしました。第2回目の先月終わった大会も、同じような形で参加打診しましたが、1チームから難しいという回答がありました。チーム数が減ると組み合わせが厳しくなるので、これはどうしようかということになり悩んだのですが、最終的には、直接うちの方から話をさせていただいて決定ということになりました。そのような流れです。

高田：2回目は18チームですけど、参加意向があっても運営できないからお断りしたということはありませんか。

西村：それはないですね。

高田：各県1チームということですね。

西村：そうですね。それで地元高知だけ2チームです。

中塚：参加チームは、現地での滞在費はかかりません。その代わりに、交通費はそれぞれ負担していただきます。全部西日本なので、車の乗り合いで来てもらう、そういう意味合いです。むしろ、宿泊費の方を大会側で持つという考えです。

西村：最大14名2泊まで。1回目も2回目そのスタイルです。交通費は、さすがにちょっと難しいです。

高田：参加選手の年齢層はどうですか。要項では12歳以上なっていますけど。

中塚：じゃあその辺りからアンケートに移りますか。もう1枚の方です、トリムカップ参加選手のアンケートってやつで、裏側にチーム代表者用のアンケートです。

## ■第2回トリムカップ参加チームアンケートより

この大会を今後どうしていくかについて、参加者から資料を得ないと次に進めないという状況でもあったので、アンケートを大急ぎでつくり、各チームに、初日の午後に配布して、最後の試合が終わるときに提出してもらいました。回収率はほぼ100%です。選手対象のアンケートでは、どういう人が参加しているのか、どういう感想を持ったのか。代表者には、あなたのチームで女子フットサルにどんな課題があるのか、本大会に参加しての感想、今後について。

今後については、初日の監督者会議で成田会長ら、今後この大会を全国規模にしたいというアナウンスがされました。「選抜チームによる全国大会」という言い方だったと思います。さらに「海外」という言葉も出てきました。つまり、

このアンケートの時点では、トリムカップは近い将来、女子の都道府県選抜による全国大会に向かっており、さらに海外進出も視野に入れている。具体的には言っていないんですけど、優勝チームの海外遠征だとか、あるいは海外のチームを招待するというようなのを可能性として視野に入れているということです。

高田さんの質問についてですけど、参加者の年齢構成と参加チームのプロフィールが資料にあります。中学生、高校生もいますが、半分以上が社会人。選手の平均年齢は24.3歳。チームによってばら

### 第2回トリムカップ参加チームアンケートより

- 全チームの選手&代表者を対象に、社団法人高知県サッカー協会が実施  
(回収率ほぼ100%)
- 選手対象アンケート
  - 1) どのような人が参加しているのか
  - 2) 本大会に参加しての感想
- 代表者対象アンケート
  - 1) どのようなチームが参加しているのか
  - 2) 女子フットサルにどのような課題があるのか
  - 3) 本大会に参加しての感想
  - 4) トリムカップの今後に関する意見

つきはあります。

東京の女子大会に比べて、若い層が出ているという印象です。サッカー歴、フットサル歴で言うと、サッカー歴よりもフットサル歴の方が短い。フットサル歴 1~3 年という人が約半分。自由記述を見ていくと、この大会をきっかけでフットサルを始めたという人も結構いるようです。元々サッカーをやっているというのが前提ですけど。

サッカー、フットサルをプレーするようになったきっかけは、体育教師としては、「体育の授業がきっかけです」というのを期待するのですが、11 人しかいません、173 人中です。「部活動」というのが 45 人と、結構いました。それと、少年サッカーのプレーヤーや、保護者として少年サッカーに関わっていたという人もいました。「その他」が多いのですが、友人・知人の勧誘、ワールドカップの影響、サッカー観戦が好き、この大会に参加するために、というのがきっかけとして挙げられています。日頃取り組んでいるのは、サッカーが 37%でフットサル 50%、あとは両方です。

質問項目をつくっているときに、高知県の女子の指導をされている方に、女性がフットサルをやる理由って何でしょうねとお聞きしたところ、「日焼けをしない」「汚れない」というのをまず挙げられました。「フットサルをする理由」にはこの項目も入れてみました。やっぱり女性なのですね、「友人がやっているから」というのが多いですね。

トリムの名前を知っていたか、トリムカップの名前を知っていたかというのを、選手と代表者に聞いたのがその次です。この大会に何を期待していたかというのがその次です。「フットサルの本格的な競技」を期待していた人は 59.5%、参加した人の 6 割が、フットサルの本格的な競技ができることを期待していました。「他チームとの交流」を期待してやってきたのは、全選手の 42.5%。「高知県への訪問」が楽しみというのは 27.2%。修学旅行という感じですね。

さらにその上ですけど、大会参加に当たって困難だったことは何ですかと聞いたところ、経費の個人負担、交通費がかかりますからしんどかったという人は、プレーヤーの 27%ということです。時間作りがきついという方は 4 割。高知県への移動が大変だという方は約半分くらいです。

大会の満足度自体は、かなり高かったと言っていいでしょう。満足、やや満足を含めると、約 8 割が満足と答えています。チーム代表者も 8~9 割が満足と言っています。ただ、どんな大会をやっても審判の判定は不満として挙げられます。また今回は、大会が限られた期間、限られた場所で行われるということで、初日で全日程を終えてしまうところが出てきます。初日が、多いところで 3 試合。初日 3 で 2 日目 0 という可能性があるわけで、その辺りが不満だというのは記述でありました。競技日程に関しては不満、やや不満が多かったですね。前日の交流会や、トリムさんの飲料提供については選手も指導者も満足でした。各チームにトリムさんからドリンクが提供され、これは結構おいしいのですが、これに関しては選手も指導者も大満足でした。

各チームの母体として、香川大学は大学のフットサル部、徳島県はサッカークラブで、普段はサッカーをやっている。岡山県はフットサルクラブですね。兵庫県から下の欄は選抜チームで、兵庫と京都、大阪は、女子のリーグをやっているの、そのリーグ選抜。滋賀と大分は複数チームの連合という構成でした。それぞれ日常の活動をしている上で問題点を書いてみました。大会に関するコメント、それと日程に関する事、交流会に関する事、一番後ろは全体を通しての感想と今後についての意見です。

## ■トリムカップの今後

第 2 回大会が始まる前に、成田会長宅で打ち合わせをしたと言いましたが、サッカー界としてどうなのかについては、フットサル連盟やCHQで話し合っていて、動かさない部分もあります。

トリムカップとして譲れない部分は、高知県で開かれる大会であるということ。これは譲れません。すると、交通費、宿泊費をどうするかということが大きな問題となってきます。もし全国大会にした

とき、北海道から高知県に来てもらうのに、じゃあ車で乗り合いでというわけにはいきません。当然飛行機代を、となってくるわけです。ある旅行業者に試算してもらいました。47都道府県すべてから参加してもらうのは無理ですから、9地域からそれぞれ1つずつ出してもらって、首都圏と関西、および地元高知から2チームとして12~14チームの大会を考えたときに、1チーム14名の交通費を考えたら、700万から1000万の旅費負担が必要になります。

小さい額ではないので、それなりの理念やビジョンをしっかりと示しておかないと、スポンサーの理解は得られません。それと、やはり高知県としての特徴を出して、付加価値をつけないといけなないので、市とか県といろいろ詰めなければならないと思います。全国大会の開催がたとえ実現したとしても、やっぱり交通の便のいいところに開催地を変更しましょうということも当然考えられます。高知県で続けてやるためにはどうすればいいかを考えなくてははいけません。

譲れない2つ目は、女性の大会であるということです。その際、どの年齢層に働きかけるか、レディースなのか、ガールズも含めるのか。そもそも年齢層を限定するのかわからないのか。あるいはどの範囲を対象にするのか。西日本なのか全国なのか。アジア・オセアニアへの展開はどうか。アジア・オセアニアへの拘りは、日本トリムという会社が中国やインドネシアに工場があり、スポンサーさんの世界進出とマッチするのではということでもあります。そういうスポンサーの商圏、戦略ともリンクさせていかなければならない。

3つ目は、フットサルの大会であるということです。ただ、大会とは言っても、「交流」と「競技」と、折角来てもらうので「観光」の部分はどう折り合いをつけるかですね。初日で負けても2日目で高知観光してもらえればいいじゃないかと僕なんかは思うのですが、アンケートを見てみると、本格的な競技をやりたい人も多いので、2日目も練習試合を入れた方がいいのかもしれない。こういったバランスはどうしたらいいのか。

単独チームか選抜チームかという問題もあります。単独チームの全国大会は、先ほど言いましたけど、ティファールカップがあるので、日本協会としては単独チームの全国大会は他には無理です。だから選抜チームの全国大会という話で進めています。

いまは高知県サッカー協会が主催です。西村さんから言われているとおり、手探りの中でやった2回目の大会も、運営は良くできたと思いますけど、全国大会ともなるとやっぱり大変ですよ。特に、いまは都道府県協会が趣旨に賛同してチームを派遣してくれているけれども、何ら拘束力もありませんから、さっきも出たように「ちょっとうち行かれへんわ」、っていう可能性も出てくるわけです。そのときやっぱりお墨付きが必要なわけです。

将来的には第1案として、日本サッカー協会主催、高知県サッカー協会主管。第2案、日本フットサル連盟主催、高知県サッカー協会主管。第3案、JFAとJFFの共同主催。この辺の協会と連盟の関係が、関係者じゃないと分かりにくいところがあるのかもしれませんが、男子の全国選抜フットサル大会はフットサル連盟が主催しています。単純に言うと、連盟の方が動きやすい。決断も早い。

野口：サッカーで言うと、Jリーグと天皇杯の違いを考えていただくと分かりやすいのですが、ネットワークを持っているチームが構成しているのが連盟で、決まりをつくり、ルールとしてやっているのは協会ですので、一言で言うのは難しいんですけど、今の形態だとリーグ戦の延長的なところ

## トリムカップの今後

### ■トリムカップの設立の経緯から

#### 1)「高知県」で開かれる大会である！

- ・参加チームの交通費・宿泊費をどうするか
- ・高知県としての特徴を出し、付加価値をつけるにはどうするか
- ・将来的にも高知県で行うためにはどうすればよいか

#### 2)「女性」の大会である！

- ・どの年齢層に働きかけるか...レディース or ガールズ or FREE
- ・どの範囲を対象とするか...西日本 or 全国 or アジア・オセアニア

#### 3)「フットサル」の大会である！

- ・交流 or 競技 or 観光... これらのバランスは？
- ・単独チーム or 選抜チーム

### ■運営の観点から

現在...高知県サッカー協会(KFA)主催

将来... 1案:日本サッカー協会(JFA)主催・KFA主管

2案:日本フットサル連盟(JFF)主催・KFA主管

3案:JFA、JFF共同主催・KFA主管

だとフットサル連盟が主催して、それ以外のカップ戦的なところは、サッカー協会が全部しているということです。

今回、JFAの大仁副会長が来られました。それからCHQ、キャプテン・ヘッド・クォーターというところで、フットサルを担当している清水さんも来られました。それと、フットサル連盟からはFリーグの事務局長をされている塩谷さんも来られて、これからどういう形で運営していくかっていうような話を、飲みながらですけどすることができました。

残り 20 分弱ですけど、この大会をどうしていったらいいかということについてディスカッションできればと思います。こんな大会があるということ自体はじめて聞いた方も多いと思います。質問でもいいのでフリーでディスカッションをしたいと思います。好き勝手言っていただいて、それを僕らが東京なり高知なりに持ち帰って、西村さんは来年の運営委員として持ち帰って、次に生かしていきたいと思います。

## ■ディスカッション

### ◆体育館での開催

フロアー：体育館でやっているのは、日程的に雨で降ったらということがあるからなのか、あと日焼けがやだという女性の立場なのか、あるいはフットサル場を含め芝生の上でできるものがないのか、その辺はどうなのかということと、海外へという点で何か具体的にアプローチはされてるのですか。

野口：本来フットサルは、いろんなところでできるのですが、ルール上は室内でやることになっています。国際大会ではないので外でやってもいいのですが、先ほどアンケートに出ていましたけど、どの時期にこの大会を持ってくるのかということで、全国的なシェアをお持ちでいらっしゃるの、だからこそ体育館でやっているということです。

### ◆海外との交流

西村：海外への具体的なアプローチの話ですけども、特にどうするかっていう答えはまだなくて、構想段階という、だからそういう視野を持ってやっていきたいということで、社長、そして成田会長もそういう感じで取り組んでおります。

中塚：懇親会でそういう話も出てくるのですが、例えばアジアの女子のフットサルはどうなっているのかというと、大仁さんも詳しくはご存じありません。一体どうなってるのだろうね、という段階です。ただ、東京のフットサル委員で、徳田さんあたりは独自のネットワークをお持ちで、台湾で女子のフットサルは盛んだとか、韓国でやっているという話も耳にするので、その辺りはオープンに進めていければと思います。話の中で出てきたのは、招待で 1~2 チーム呼ぶというスタイル、または優勝チームや選抜選手かな、とにかくこの大会の参加者から海外へ行くということなど、いろんなやり方があるかなという気がしています。

當間：たまたまですけど、去年から国際交流協会ってところのフットサル大会に関わるようになりました。横須賀とか三浦半島に滞在している外国人を集めて、横須賀市主催で、去年で 9 回目です。それがサッカーではなくフットサルなのですね。それまでは男子だけだったのですが、去年から女子の部もはじまり、私は去年はじめて実行委員になって、女子の大会をはじめてみたのです。国際大会だと男性と子どもはいっぱいいますが、女性の場合、県内にある 4 つの女子サッカーチームとフットサルチームに来てもらいました。このように、近くにいる外国人を交えるような発想がある

のです。

中塚：高知県在住の外国人に（笑）。

西村：土佐中・高では、毎年、高知県在住の外国人の方と学生との交流試合をやっていたと思います。

フロアー：ビーチサッカーはどうですか。

西村：それこそ、さっき中塚さんが行かれた蠟人形の、香南市というところにビーチがありまして、そこでは地元の大学生がビーチサッカーをやっています。たぶん今年は県の方でも大会をやると思います。

本杉：高知県自体でフットサルが盛り上がってくるのが前提になってくると思います。競技人口拡大の面からいくと、地元の小学校、中学校、高校の授業で実際フットサルに触れる機会が多くなれば。子どもの頃に面白いものっていうのは心に残って、取っかかりになると思うので。具体的にどうするのか分かりませんが、例えば学校の先生に、体育の授業に取り入れてもらってもいいだろうし、そういうことをやっていく中で、その学校を大会に招待すれば、そこでまた人口が広がり、熱も上がってくるというような、知る機会が増えるのではないかと思います。僕は、地元愛知県に、将来的にフットサル場を持って、サッカー、フットサルを知る機会を増やしたいなっていう、夢みたいなことを考えていたので、そういうことができるのであればいいのではないかと思います。

#### ◆高知県におけるフットサルの現状

中塚：高知県のフットサル事情はどのようなのですか。

西村：競技人口自体は、四国の中では2番目。それでもフットサル登録人口は1380人。うち女性が148人いるわけですけど、数字的には徐々に増加傾向にはあります。高知県フットサルリーグというのが5年くらい前にスタートしてまして、1部10チーム、2部10チーム、エンジョイが壮年・ミックスという形で活動しています。それで女子のチームが、実は1チームだけありまして、このエンジョイの中に所属しています。あとはノンオフィシャルな個人でやっていたりするようなリーグが、2つほど存在してまして、本当に初心者という方はまずこっちでフットサルに関わったりします。職場単位で、そういったリーグに参加したり、仲間を集めてやっているプライベートなリーグは、ルールもあまり厳密にはしていないというのが多いです。もっと高いレベルでやりたい人は、県リーグに入ってやっていますね。女子のフットサルリーグ自体はまだ設立されていないのが現状です。

県内の施設ですけど、民間のコートは高知県にはありません。全くないです。基本的に体育館を使うような形になります。貸してくれないところも結構ありますけど、高知市内は割と体育館を貸してくれます。最近では、平日の夜3面はすべてフットサルというという状況じゃないですか。ゴールも普通に置いてあるし、ネットも普通にありますね。人気はすごいです。

#### ◆フットサル施設をめぐって—体育館の利用に関して

本杉：私は愛知県の豊橋市ですが、毎週金曜日に、市の体育館を借りて、自分たちでフットサルの練習をやっています。体育館は大きいのですが、使わせてくれるのは体育館のフロアーの、小さい方のアリーナの半面だけです。そこにはゴールがワンセット置いてあるだけです。それで、チーム数も増えたから、体育館の方から「1チーム、1ヶ月に2回しか使えない」ということを言われたの

です。それまでは言われなかったのに。それでおかしいと僕は思ったのですが、わかりましたと言って、逆に、ゴールを増やして両面使えるようにしてくださいと言ったのです。そしたら、フットサル以外にソフトバレーかバドミントンで使う人がいるらしいのですが、その人たちから、フットサルをやると床が痛むからとクレームがきているらしいのです。そういったことが他のところもあるようだったら、すごい障害だと思います。

加納：それに関連して一つあります。八王子市の中学校でフットサルをやっていましたが、サッカーをやっていた男性がバンバン蹴るので、たくさん壊したらしいのです。そしたら、女、子どもまで一斉に締め出されてしまいました。一斉に禁止で。また最近ゆるくなったみたいですけど、一時期全部使わせないということになりました。やはり体育館はフットサル用にはできていないのですね。それに狭いということも多いので、あそこで制限を加えないと、女性、子どもは大丈夫でしょうけど、男性がサッカーの感覚でやったら確かに。

フローア：床が痛むっていうより、窓や壁が聞きますよね。

本杉：僕の場合は床でしたね。

フローア2：床の場合は、例えば、剣道や武道で使っていますか。

本杉：空手で使っていますね。

フローア2：でしょ。素足でやると、フットサルをやった後って、スライディングをするとラインがつくのです、床に。そうすると、素足でいくとつんのめったりというようなクレームがありますね。

本杉：でも、私が言われたのは、そこでやっているのは、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、それくらいの競技の方から言われたのです。大会で使うのですよ、市の体育館ですから。それを言われたので、増設はできないのです。

中塚：府中の峯山さん、どうですか。

峯山：やっぱり専門の施設がないですね。ブラジルでいくつかチームを回りましたが、床のほとんどがフローリングでなく、アスファルトに近いですね。コートの上隅に支柱があり、回りは壁がなく吹き抜けです。床が人工芝でないだけやりやすいですけど、日本の民間フットサル場と変わらないです。それを考えると、日本ではフットサルは行政から大歓迎という形にはならないのではないのでしょうか。

本杉：愛知県で名古屋に次いで2番目の都市ですけど、民間で運営されているフットサル場は1つだけです。最近1面増えて3面ですが、屋外。雨になると人がほとんど来ないのが現状です。そうすると取りにくいっていうのと、民間なのでやはりお金がかかります。東京だとそんな感覚はないと思いますが、1時間6000~8000っていうのは高いっていう感覚なのですね。そうすると、市の公共施設は安いから、地元の総合体育館だと4時間3200円くらいなのです。ただ、そういう安いところに行ったときに、さっき言ったそういう問題が起こってくるから、やりたくてもできない人が結構いますね。

高田：土でやるというのはどうですか？専門的なエンジョイとか普及とかそういう観点から見ると、体育館はやりやすいけど、ナイター設備もある土のグラウンドにラインを引いて。東京だとあまりやりませんよね。前回のドイツの話ではないけど、私の周りで、協会に登録はしていないけど、いっぱいフットサルをやっている人はいる。ローカルな大会にもそういった人たちが参加している。でも、土ではあまりやらないですよ。

#### ◆トリムカップの方向性

牛木：協会の傘下チームの公式な大会をやろうという話ですが、フットサルって、本来そんなものではない。もともとそんな形で始まったわけではないゲームですよ。草サッカー、草フットサルでいいんじゃないか。そういう考え方がある。でも、サッカー協会の人たちはそうはみていないでしょうね。規則で非加盟チーム同士の試合は禁止されていますから、草フットサルの大会は認めないでしょう。でもそれは、競技団体の建前です。そんな建前には従わない者も多い。私も年に2回、非公式のフットサルの牛木杯っていうのをやっています。

公認の大会をやりたいというのであれば、僕はあまり賛成ではない。自由にやっていた方がいい、そういうレベルの大会の方がいいと僕なんかは思いますけど。でも公認大会としてやりたいのであれば、方法としては2つしかないと思います。1つは公式戦としてタイトルでかかった大会をやる。タイトルのかかった大会としては、全日本フットサル選手権大会は、すでに行われているわけですから、高知県の場合は、選抜大会、選抜チームの大会をやるしかないでしょう。でも、そういう大会は持ち回りでやるべきもので、高知だけに来いというのはなかなか難しい。

もう1つは、協会傘下にあるけど、招待大会としてやることです。高知招待大会ということで、単独チームでも、高知が勝手に選んで招待するというやり方はあるでしょう。これは、高知県が協会に服従してやるか、協会の外に向かっていくかってことですね。

菊池：いま言われたような大会は東京でも行われており、アサヒ飲料杯というのがありますが、それって、選手登録を全員はしていなかったと記憶しています。また、キャノンジュニアサッカー大会というのもありまして、味の素スタジアムを1日借り切って決勝までやる凄まじい大会が以前はありました。当時は東京都サッカー協会が、フットサル審判の派遣をしていました。

フロアー：それともう1つ。フットサルとちょっと違うのですが、県のジュニア大会がありまして、キャノンカップ。優秀選手に入るとアメリカに行ける。それも確か登録していなくてもいいような大会があります。

牛木：僕が言ったのは、公式大会としてやるのに問題があるのだから、別の方法しかないということです。でも協会は、参加チームと選手は、みな登録しろというでしょう。われわれみたいな年寄りのシニア大会が、現在いろいろありますが、そういう超OBに対しても、協会は全員登録してくれと言ってきています。あほらしい、なんで登録しなければならないのだと、みんな言っています。

中塚：話の進み方としては、西日本で始まった大会をいかにメジャーにしていくかと、その一点張りですよ。でも、そのメジャー化とは何ぞやという議論が抜け落ちています。最初に食卓で始まったときの話では、全国選抜大会ってのはこれっぽっちも考えていなくて、むしろそんなことよりも高知県が手を結ぶのはアジア・オセアニア。そう人たちとのネットワークができる面白いのではないかということでした。

茅野：都道府県対抗の選抜大会というのは実は国体なのです。つまり都道府県の旗を背負って戦う大



会という国体になるのですね。そういう大会を育てていくとなると、色々な問題が出てきて大変になるのでは。むしろ逆らわないけど二重構造でやっていくのが面白いのかなと感じました。つまりクラブでもいいよ、選抜でもいいよ、というように、好きな人が出てくださってというのが。協会に逆らわないけど、別ですよって企画が面白いのではないかなって、話を聞いていて感じました。

峯山：女性だとどうしても主婦だったり、仕事をしていながら結婚していたり学生だったりいろいろあって、自分の生活の中でチームが見つからないことがあります。フットサルのチームに入っていないからできない、大会にもチームに所属していないから出られないっていうジレンマを抱えている方が結構いらっしゃるんで、個人で大会にエントリーして、例えば集まった地域でチームにしてやっていくと面白いと思います。実際にありますよね。

フローア：あのすごくいいことで、実際去年それをやろうとしたのです。女性チームはなかなか集まれないので、フットサル大会ですね。主に男子と少年しかやっていなかったんで、はじめて女子のチームを集めたいと、最初8チーム集めようとしたのですが、募集したけど、集まらないのですよね。やっぱり、チームに所属していないと。1人でもいいから参加させてくださってというのは、不安の方が大きいみたいですね。

加納：1人で来いといわれると難しいかもしれませんね。仲間を重視しますから、特に女性は。ですから、5人揃わなくてもいいよっていう方がいいかもしれませんね。2人参加とか。そういう大会はありますよね。全部ではないですけど、16チーム中何チームかは連合軍だっていうのはありますね。まったく1人でいってというのは、たぶん東京でも集まらないでしょうね。

牛木：国際大会をやりたいのであれば、高知招待国際大会としてやることになる。東南アジアではフットサルが普及していないので、普及を目的にやるのだったら意義がある。高知招待で東南アジアや中国のチームを育成するという方策を打ち出せば、いいと思います。

中塚：ありがとうございます。だいぶ時間も過ぎたので、続きは場所を変えて行いましょう。最後に西村さん、何かあればお願いします。

西村：今日はじめて高知から出てきまして、貴重な話を聞かせていただいて。まだまだお酒の席で話を聞かせていただきたいと思います。第3回。また素晴らしい大会にしたいと思います。本日はありがとうございました。

以上